

本電子化された添付文書をよく読んでから使用して下さい

届出番号 27E1X80125000115

* 2025 年 6 月 改訂(第 2 版)
2019 年 12 月 作成(第 1 版)
Code 461-79501
469-79502

体外診断用医薬品

乳酸脱水素酵素キット

L タイプワコー LD・IF

(識別記号: **nx-c**)

(IFCC 対応法)

〔一般的な注意〕

- (1) 本製品は体外診断用であり、それ以外の目的に使用しないで下さい。
- (2) この電子化された添付文書に記載された使用方法に従って使用して下さい。記載された使用方法及び使用目的以外での使用については、測定値の信頼性を保証しかねます。
- (3) 測定機器は取扱説明書に従い適切な条件下で使用して下さい。なお、詳細については機器メーカーに問い合わせて下さい。
- (4) 測定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果と併せて担当医師が総合的に判断して下さい。

〔形状・構造等(キットの構成)〕

- (1) 基質緩衝液
 - 〔 N-メチル-D-グルカミン(MEG) 〕
 - 〔 L-乳酸リチウム 〕
- (2) NAD 溶液
 - (β-ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド酸化型(NAD)(酵母由来))

〔使用目的〕

血清又は血漿中の乳酸脱水素酵素(LD)の測定

〔測定原理〕

試料中の乳酸脱水素酵素(LD)の作用により、β-ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド酸化型(NAD)の存在下で乳酸はピルビン酸に酸化されます。このとき NAD は β-ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド還元型(NADH)に還元され 340nm の吸光度が上昇します。この NADH の増加速度を測定することにより試料中の LD 活性値を求めます。



〔操作上の注意〕

(1) 測定試料の性質、採取法

- (イ) 採取後の検体は速やかに測定して下さい。
- (ロ) 赤血球中には血清中の 100~400 倍の LD が含まれています。従って溶血した血清の場合には測定値が高くなりますから採血しなおすか、又は参考値程度にとどめて下さい。
- (ハ) 抗凝固剤のヘパリン、クエン酸塩、EDTA、シュウ酸塩 及び解糖阻止剤のフッ化ナトリウムは通常使用量では測定値に影響を与えません。

(2) 妨害物質・妨害薬剤

- (イ) アスコルビン酸、ビリルビンは測定値にほとんど影響を与えません。

〔用法・用量(操作方法)〕

(1) 試薬の調製方法

基質緩衝液及び NAD 溶液はそのまま使用して下さい。
開封後は、2~10℃保存で 1 か月以内に使用して下さい。
基質緩衝液の開封後の取扱いについては〈使用上の注意〉を参照して下さい。

* (2) 必要な器具・器材・試料等

自動分析装置：TBA-nx360 又は同等の機器
検量用試料：酵素キャリブレーター L(別売品)
使用に際しては、酵素キャリブレーター L の現品説明書を参照して下さい。

* (3) 測定法

〈TBA-nx360 又は同等の機器への適用〉

操作の詳細は機器の取扱説明書を参照して下さい。



〈LD 活性値の求め方〉

検量用試料の吸光度変化より作成した検量線より求めます。

〔測定結果の判定法〕

参考基準範囲⁽¹⁾ 血清 125~220U/L (37℃)

〔性能〕

〔性能〕

(1) 感度

- (イ) 生理食塩水を試料として操作した場合の吸光度変化は、0.003 (ΔE/min) 以下です。
- (ロ) 特定活性の標準液 (LD 400U/L, 37℃：乳酸基質法) を試料として操作した場合の吸光度変化は、0.01~0.10 (ΔE/min) の範囲内です。

(2) 正確性

既知活性の検体を測定するとき、既知活性の ±9% 以内にあります。

(3) 同時再現性

同一検体を 5 回同時に測定するとき、測定値の CV 値は 5% 以下です。

(4) 測定範囲

LD 5~1300U/L (37℃) です。(TBA-nx360 による)

〈校正用の基準物質(標準物質)〉

JCCLS 認証標準物質 常用参照標準物質：JSCC 常用酵素

〔使用上又は取扱い上の注意〕

〈取扱い上(危険防止)の注意〉

- (1) 試薬が誤って目や口に入ったり、皮膚に付着した場合には、直ちに大量の水で洗い流し、必要があれば医師の手当等を受けて下さい。
- (2) 検体はウイルス等の感染の危険性を考慮して取り扱って下さい。
- (3) 検査にあたっては感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用して下さい。

〈使用上の注意〉

- (1) 試薬は指定された条件で保管し、使用期限を過ぎたものは使用しないで下さい。
 - (2) 誤って凍結させた試薬は使用しないで下さい。正しい結果が得られないことがあります。
 - (3) 試薬の開封後は装置内の試薬庫で保管して下さい。試薬庫から取り出して保存する場合は蓋を開けて指定の条件で保存して下さい。
 - (4) 本品中の容器、付属品は他の目的に転用しないで下さい。
 - (5) 結合している試薬容器同士を外したり、他の試薬容器と組み合わせて使用しないで下さい。
 - (6) 試薬容器に貼り付けてある試薬バーコードを汚したり傷つけたりしないで下さい。
 - (7) 試薬容器に試薬の継ぎ足しはしないで下さい。
 - (8) 基質緩衝液は、開栓したまま長期間放置しますと空気中の炭酸ガスを吸収して pH が低下し測定値が変わることがありますので、使用後は必ず密栓して下さい。
 - (9) 本操作での測定単位は、国際単位 (U/L, 37℃) です。
37℃において、1 分間に 1 μmol の基質を変化させる酵素活性が 1U/L となります。
- * (10) 酵素キャリブレーター L の表示値を変更したり、酵素キャリブレーター L を使用して得られたファクターを補正したり、あるいは、得られた測定値を補正した場合には、IFCC 法への対応ができませんので、注意して下さい。

〈廃棄上の注意〉

- (1) 廃棄に際しては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)及び排水基準に従って適切に処理して下さい。
- (2) 検体と接触した試薬及び試薬容器等は、感染の危険性がありますので、次亜塩素酸ナトリウム(有効塩素濃度 1000ppm、1 時間以上浸漬)又はグルタルアルデヒド(2%、1 時間以上浸漬)による消毒処理あるいはオートクレーブ(121℃、20 分以上)による滅菌処理を行ってから廃棄して下さい。
- (3) 検体、廃液等が飛散した場合には、次亜塩素酸ナトリウム(有効塩素濃度 1000ppm)、グルタルアルデヒド(2%)等の消毒液を用いて拭き取って下さい。

〔貯蔵方法・有効期間〕

	(貯蔵方法)	(有効期間)
L タイプワコー LD・IF	2～10℃保存	製造後 2 か年間

〔包装単位〕

(コード番号)	(品名)	(識別記号)	(包装)
461-79501	L タイプワコー LD・IF	nx-c	セット (2 カセット入り)
	1 カセット(試薬容器)中		
	① 基質緩衝液		53mL
	② NAD 溶液		17mL

〔主要文献〕

(1) Tietz Textbook of Clinical Chemistry and Molecular Diagnostics, 4th Ed. 602 (2006).

〔問い合わせ先〕

富士フイルム 和光純薬株式会社
臨床検査薬 カスタマーサポートセンター
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町二丁目 4 番 1 号
Tel : 03-3270-9134 (ダイヤルイン)

* 〔別 売〕

(コード番号)	(品名)	(包装)
463-93001	酵素キャリブレーター L	1mL×4
	(表示値はロットごとに異なり) (現品説明書に記載しています)	

製造販売元

富士フイルム 和光純薬株式会社
大阪府中央区道修町三丁目 1 番 2 号

Wako

25.06.13K02